



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
<http://dohekifuku.zenhekiren.net/>

委員長 古田 統
 編集責任者 佐藤 正由
 印刷所 山東印刷株式会社
 夕張郡栗山町中央2丁目245 TEL 0123-72-1151
 題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

様々な研究の機会を活かした、 更なる深化・充実を期待して

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 古田 統



令和元年度(平成31年度)の本連盟の事業を滞りなく実施することができたことへ、全道の会員の皆様にあらためて感謝を込めながらご挨拶申し上げます。

本連盟の二大行事である「第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会」及び「第69回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会」は会員、関係機関各位のご尽力のもと、多くの優れた実践の公開・交流がなされ盛会裏に終えることができました。加えて各地区や町村レベルでの研究大会(実践交流会・ゼミナール等)も活発に開催されたと聞き、会員一人ひとりの熱意、成果の積上げに敬意を表します。

10月に開催された第68回全国へき地教育研究大会長野大会にも北海道から13名の参加者があり、森町立濁川小学校の斉藤佳子教諭が第2分散会において「生き生きと学び、互いに高め合う子の育成～主体的に学び合、考えを伝え合い追究する力を育てる～」の研究主題で、田植え・稲刈り体験など家庭・地域と連携した教育活動と、全校朝会・地域行事での発表の工夫・充実について発表されました。「ふるさとで学び、新しい時代を拓く、拓かれた学校・学級経営の創造と推進」への確かな実践に、参観者の『ふるさとを身近に感じ「良さ」や「温かさ」に触れる機会となり心に残った。』

などの感想を耳にすることができました。また3月に発刊される全国へき地教育研究連盟実践事例集(令和2年度版)には、北海道から弟子屈町立奥春別小学校〔地域とともに「生きる力」を育む〕と北見市立川沿小学校〔主体的に生き生きと表現できる算数の授業づくり〕の実践が掲載されます。このように、へき・複に携わる北海道の仲間が全国においても活躍されていることは心強く頼もしい限りです。

さらに今年度は“これからのへき地・小規模校教育の充実”をテーマとした道立教育研究所講座や道教大フォーラムが開講、開設されました。こういった研究機会の広がりには私たちの研究にとって追い風になると共に、へき地・複式・小規模校教育への重要性、期待を強く感じるものです。

本連盟に携わる我々の使命は、へき地・複式教育における実践力の向上にあります。過日の常任委員会では、次年度もこれまで培ってきた北海道のへき地・複式教育の財産を土台に、各校の実践研究を積み重ね、加盟校同士がしっかりと手を取り合うとともに、道小、道研、道教大などの教育研究団体・組織との連携も強く図りながら、へき地・複式教育の充実・発展に向け組織を挙げて取り組むことを確認しました。

会員の皆様、関係機関の皆様の代わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。道へき・複連情報167号発行に当たってのご挨拶といたします。

令和元年度 会 務 報 告

事務局長 温泉 敏 ～23日(火) 全へき連第2回理事会

全へき連第1回図書編纂委員会
(東京 委員長・研究部長)

1 一般経過報告

【5月】

10日(金) 令和元年度定期総会
(ライフオート札幌)
研修会(講師;道研 北村所長)
新旧役員引継、第1回組織検討委員会
第1回常任委員会
関係機関への就任挨拶回り
(道教委・弘済会・北海道通信)

11日(土) 道へき・複連OB会総会・OB会結
成25周年記念式典及び祝賀会
(札幌アパホテル 顧問・委員長・
研究部長・事務局長)

20日(月) 第1回企画委員会、第1回研究推進
委員会 ～21日
(ライフオート札幌)
挨拶回り(日本教育新聞・道小・道
教育大 顧問・委員長・事務局長)

29日(水) 全へき連 平成30年度第6回理事会
(東京 顧問・委員長)

30日(木) 全へき連春季総会(東京 顧問・委
員長・研究部長・事務局長)

31日(金) 全へき連春季総会・第1回理事会
(顧問・委員長・研究部長)
柿崎顧問 全へき連会長 再任
古田委員長 全へき連副会長再任

【6月】

10日(月) 檜山教育局・教育長会議 挨拶回り
(委員長・事務局長)

14日(金) 情報誌第165号発行

25日(火) 第2回常任委員会
(ライフオート札幌)
北海道小学校長会との教育懇談会

27日(木) 「少子化・人口減少社会に対応した
活力ある学校教育推進事業」第1回
有識者会議(委員長)

【7月】

8日(月) 第2回企画委員会/第2回研究推進
委員会(ライフオート札幌)

9日(火) これからのへき地・小規模校教育充
実研修【基礎編】(道研実施)

22日(月) 全へき連第2回理事会
(東京 顧問・委員長)

【8月】

5日(月) 第3回常任委員会・第1回組織検討
委員会(ライフオート札幌)

28日(水) 第1回へき地・小規模校教育推進フ
ォーラム(道教大 顧問・委員長・
研究部長)

【9月】

3日(火) これからのへき地・小規模校教育充
実研修【発展編】(道研実施)

10日(火) 「少子化・人口減少社会に対応した
活力ある学校教育推進事業」第2回
有識者会議(委員長)

18日(水) 第4回常任委員会・第1回監査委員会
・第3回企画/研究推進委員会
(ホテルサンプラザ)

19日(木) 評議委員会
第68回全道へき地複式教育研究大会
空知大会全体会・分散会
(ホテルサンプラザ)

20日(金) 同大会 分科会(管内7会場)

27日(金) 第69回全道へき地複式教育研究大会
檜山プレ大会 各分科会への巡回訪
問(委員長・総務部長・研究部長・
財政部長・事務局長・事務局次長)

【10月】

9日(水) 全へき連秋季総会、第3回理事会
(上田市:顧問・委員長・研究部長
・事務局長)

10日(木) 第68回全へき連研究大会長野大会

～11日(金) (上田市:顧問・委員長・研究部長
・事務局長)

【11月】

7日(木) 道教委挨拶回り(顧問・委員長・事
務局長)

「少子化・人口減少社会に対応した
活力ある学校教育推進事業」第3回
有識者会議(委員長)

15日(金) 情報誌166号発行

20日(水) 全へき連 第4回理事会
(東京 顧問・委員長)

21日(木) 全へき連研究推進協議会

(東京 顧問・委員長・研究部長)
22日(金) 全へき連研究推進協議会・第2回図
書編纂委員会
(東京 顧問・委員長・研究部長)

【1月】

27日(月) 第5回常任委員会
道立教育研究所との教育懇談会
30日(木) 全へき連 第3回図書編纂委員会
(東京 顧問・委員長・研究部長)

【2月】

8日(土) OB会役員との情報交換会
(アパホテル 顧問・委員長)
12日(水) 第4回企画委員会／研究推進委員会
～13日(木) (ライフオート札幌 研究部長)
13日(木) 全へき連 第5回理事会
～14日(金) (東京 顧問・委員長)
14日(金) 情報誌167号発行

【3月】

7日(土) へき地・小規模校教育推進フォーラム
(道教大旭川校)

【5月】

7日(木) 第6回常任委員会・第2回監査委員会
8日(金) 令和2年度 北海道へき地・複式教育
研究連盟定期総会
第1回組織検討委員会
第1回常任委員会
関係機関挨拶回り(道教委ほか)

2 一般業務報告

本連盟は昨年度、結成70年目を迎え、今年度から新たな一步を踏み出すこととなりました。これまで地域に根ざした教育を探究するとともにへき地校の教育条件整備を進め、確実に成果を重ねてきました。令和元年度においても、研究、組織、教育条件整備等の課題解決に向け業務を推進してきましたので、その概要を記載し報告と致します。

◇ 研究面では、第10次長期5か年研究推進計画の1年目として、第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会を開催いたしました。現地実行委員会、会場校並びに各地区へき地複式連盟(研究会)の多大なご努力とご協力により、実践的研究成果が全道各地に発信されました。特に、長計1年目の今後の方向性を発信できたことは大きいといえます。

1日目に開催した「分散会」でも、学校・学級経営、学習指導のあわせて3つの実践発表が

あり、それぞれの会場で熱心な討議をしていただき、充実した時間となりました。

また、第69回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会においても空知大会と同様に10次長計にそった研究、実践が進められ、次年度の本大会に向けて期待が高まった大会となりました。

◇ 組織面では、学校規模適正配置計画の推進や少子化による児童生徒数の減少から、各市町村においてへき地・小規模校の統廃合が進み、加盟校及び会員の減少が加速しています。さらに、令和元年度を最後に統廃合する学校は、全道で20校以上となることが決まっています。

これに伴い、今後の組織の事業のあり方や財政運営について、組織検討委員会の答申を受け、全道大会の持ち方等を検討し、令和4年度から新たな取り組みを進めていくこととなりました。

また役員や会議の回数も従前より少なくする工夫もしてきました。

未加盟校への働きかけについては、各地区に道へき・複連の発足の趣旨や目的、加盟することのメリット等についての啓発活動を行うなどの意識高揚に向けた取組をお願いしてきました。

◇ 教育条件整備については、3学級4定員や教頭未配置校の解消をはじめ、へき地複式校の抱える諸課題の解決のため、全へき連、道小、道へき複連OB会と連携しながら、関係機関に要請してきました。文教施策懇談会の各課懇談会でも道教委に要望等を伝えることも取り組んできました。

へき地級の改定については、道小理事会等で各管内の代表の方に協力を依頼するとともに、これまで同様、地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの検討に努め、国や道への意見具申を続けていきます。

◇ 研究推進、組織確立、財政上の諸課題については、組織検討委員会を設置して毎年検討を重ねてきました。中間答申をもって報告させていただきましたが、連盟だけではなく各地区の課題も踏まえた論議を重ね、時代や社会環境の変化に対応した組織運営を目指してきました。

3 情報関係活動経過報告(概要)

事務局次長 佐藤 正由
5月10日(金) 定期総会で「道へき・複連情報」

	発行計画を承認
	情報165号原稿依頼
6月14日(金)	情報165号発行・発送 道へき・複連HP更新
8月5日(月)	情報166号原稿依頼
11月15日(金)	情報166号発行・発送 道へき・複連HP更新
1月21日(金)	情報167号原稿依頼確認
2月14日(金)	情報167号発行・発送 道へき・複連HP更新

〈道へき・複連ホームページの内容〉	
1	概要(要覧 管内担当)
2	長期研究推進計画
3	各地区研究主題
4	道へき・複連刊行物(道へき・複連情報研究部情報 他)
5	実践事例
6	全道大会 全国大会
7	調査等報告書
8	シンボルマーク へき地教師の歌「太陽となろう」

4 情報関係事業報告

(1) 情報関係

「道へき・複連情報誌」(165、166、167号)を発行し、広報活動に努めました。165号では定期総会特集、166号では第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会特集、167号では令和元年度の活動報告及び次年度の檜山大会やオホーツクプレ大会についてのお知らせを掲載しました。今年度開催された空知大会の推進に際して、ご尽力いただきました空知へき・複連の皆様をはじめ、情報提供や原稿執筆を賜りました多くの方々へ改めて感謝とお礼を申し上げます。

〈各号の主な内容〉

【第165号】

- 令和元年度 道へき・複連定期総会特集号
- ・定期総会報告
 - ・役員・代議員研究会の概要
 - ・第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会の案内
 - ・第69回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会の案内

【第166号】

- 第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会特集号
- ・空知大会の報告
 - ・第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会の案内

【第167号】

- 令和元年度 道へき・複連活動報告特集号
- ・今年度の活動報告
 - ・第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会に向けて
 - ・第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツクプレ大会に向けて

(2) 「全国へき地教育研究連盟HP」関係

① スムーズな移行の取組

今年度9月より、「全国へき地教育新聞」から「全国へき地教育研究連盟HP」へ移行しました。会員の皆様のご理解とご協力により、スムーズな移行ができましたことに心より感謝いたします。

「全国へき地教育研究連盟HP」は今までの新聞と同様に、全へき連とへき地・複式校を結ぶ貴重なツールです。また、複式教育に係わる各種情報を掲載するとともに、私たちの教育実践を発表し、広く交流できる手立てでもあります。さらには、今後のへき地・複式校の減少を考えると、HPを介しての情報発信は、より多くの読者がより身近により容易に接する方法とも言えます。今年度のHPの管理運営費用(1校300円)については、道へき・複連の全へき連会計の中から一括して加盟校数分を支払いました。

〈具体的な手立て〉

- 定期総会、評議委員会での周知
- 各地区の委員長または事務局長へ、HPに関わるデータを送信
- 道へき・複連及び各地区事務局長との連携
- 必要により原稿の確認を各地区事務局等へ送信

② 手続きの流れ

- ア 全へき→道へき：原稿割当
- イ 道へき→各地区：原稿割当
- ウ 各地区→道へき：執筆者報告
- エ 道へき→各地区：依頼文ひな型送信
- オ 各地区→執筆者：依頼文送信
- カ 執筆者→道へき：原稿提出
- キ 道へき⇔執筆者：原稿推敲
- ク 道へき→全へき：原稿提出
- ケ 全へきHP：原稿アップ

※上記については、全てメールで執り行います。

③ 原稿種別、依頼数、地区名、氏名

【令和元年9月～令和2年8月】

○ 論評（市町村教育長、各局指導主事等）3本
〈後志、十勝、釧路〉

- ・後志教育局義務教育指導班
主査 市村 慈規氏
- ・十勝教育局義務教育指導班
主査 山田 圭介氏
- ・釧路管内鶴居村教育委員会
教育長 国安 修一氏

○ 山紫水明（校長） 5本
〈空知、後志、胆振、日高、渡島〉

- ・長沼町立西長沼小学校 校長 新保 秀樹氏
- ・積丹町立余別小学校 校長 代永 研氏
- ・とうや湖町立とうや小学校
校長 田湯 義浩氏
- ・えりも町立えりも岬小学校
校長 鈴木 晋作氏
- ・森町立濁川小学校 校長 小野寺 徹氏

○ 事務室より（事務職員） 2本
〈渡島、檜山〉

- ・森町立尾白内小学校
事務職員 渡辺 至高氏
- ・今金町立種川小学校
事務職員 池田 隼紘氏

○ 保健室より（養護教諭） 2本
〈上川、留萌〉

- ・当麻町立宇園別小学校
養護教諭 遠藤美穂子氏
- ・手塩町立啓徳小学校
養護教諭 相馬健一朗氏

○ 研究実践（各校の実践） 8本
〈石狩、空知、上川、宗谷、オホーツク、十勝、
釧路、根室〉

- ・石狩市立浜益中学校 校長 大浦 浩氏
- ・美唄市立峰延小学校 教諭 伏田 祐和氏
- ・美瑛町立明德小学校 教頭 宮本 貴弘氏
- ・湧別町立芭露学園 教頭 西胤 敬氏
- ・宗谷市立宗谷小学校 校長 山本以久子氏
- ・宗谷市立大岬小学校 校長 佐藤 聖士氏
- ・宗谷市立富磯小学校 校長 中野 悟氏

・新得町立富村牛小中学校
校長 新倉 忠氏

・弟子屈町立奥春別小学校
校長 寺田 裕子氏

・根室市立海星小中学校 校長 濱田 有子氏

○ 若者の広場 4本
〈上川、宗谷、オホーツク、十勝〉

- ・士別市立上士別小学校 教諭 田中 友梨氏
- ・稚内市立富磯小学校 教諭 中井 駿氏
- ・森町立濁川小学校 教諭 西坂 紳吾氏
- ・鹿追町立笹川小学校 教諭 中川 喬介氏

○ 学習指導案 8本
〈石狩、空知、後志、胆振、日高、渡島、檜山、
上川〉

- ・千歳市立支笏湖小学校 校長 小川 亮男氏
- ・栗山町立角田小学校 教頭 杉島 亜紀氏
- ・神恵内村立神恵内小学校
校長 増川 佳子氏
- ・白老町立虎杖小学校 教諭 北村 剛也氏
- ・平取町立貫気別小学校 教頭 五十嵐敏英氏
- ・七飯町立軍川小学校 校長 盛 健氏
- ・上ノ国町立河北小学校 教頭 茅森 輝男氏
- ・上富良野町立東中小学校
教頭 西田 朋代氏

④ その他

ア 原稿はA4サイズ1枚程度（1200字程度、
写真を含む）とし、研究実践についてはペ
ージ数の制限を設けませんでした。

イ ワード文書で統一しました。道へき・複連
及び全へきでの校正作業等がスムーズに行
えました。

ウ 指導案等では、児童の名前を伏せたり、個
人が特定されない写真を使用したりして原
稿を作成していただきました。個人情報の
保護を図りました。

エ 見やすさ・読みやすさの観点から、写真や
イラストを配置した原稿をお願いします。

オ 大会情報や大会報告があれば、随時受け付
けて全へき連へ報告します。

令和元年度 総務部報告

総務部長 加藤 康德

1 活動経過報告

- 5月11日 道へき・複連総会
第1回組織検討委員会
第1回常任委員会
- 6月25日 第2回常任委員会
道小との教育懇談会
- 7月10日 全へき連基本調査配信
17日 組織検討委員会 各地区意見集約開始
- 8月1日 組織検討委員会 各地区意見集約完了
5日 第3回常任委員会
第2回組織検討委員会
8日 全へき連調査報告
- 9月4日 全へき連リンク集調査集約開始
17日 全へき連リンク集報告
18日 第4回常任委員会
19日～20日
評議委員会(19日)
第68回全道へき地複式教育研究大会
空知大会
27日 第69回全道へき地複式教育研究大会
檜山プレ大会
- 10月9日 全国へき地教育研究大会長野大会
(11日迄)
- 12月3日 組織検討委員会最終報告作成
- 1月27日 第5回常任委員会
- 5月7日 第6回常任委員会
8日 令和2年度定期総会

2 教育予算要望等の要望について

〈基本的な要望事項〉

1. 教員定数の配置基準および学級編成基準の改善
2. 教職員の生活の安定・向上のための改善
3. 教職員の資質向上に関わる研修についての改善
4. 学校経営の適正化と充実
5. へき地教育の推進についての改善
6. へき地勤務条件の充実

上記「基本的な要望事項」にもとづき、「北海道

文教施策・予算策定に関する要望活動」「全へき連と連携した要望活動」を道へき・複連事務局と連携して行ってきました。その中で「令和元年度の文教施策と予算策定に関する要望書」には、昨年度同様「へき地校・複式校・小規模校・併置校に関わる」項目において要望を強調してきました。また、道教委との文教施策懇談会・各課懇談会で「へき地複式教育における課題」についての提言を行いました。今後も、へき地・複式教育の教育環境の向上を目指し、ねばり強く取り組んでいく必要があります。

3 へき地級別指定見直しに関する取組

令和4年の改定に向けて、道教委の動きを注視しながら「地域の実態に応じた算定であるか。」「適切な調整点であるか。」など情報収集に努め、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携を深めていきます。

また、組織検討委員会の中でへき地級改定に向けた取組を交流し、各地区のへき地級の改善に向け支援をしていきます。

4 調査活動

- (1) 全へき連基本調査
- (2) 全へき連リンク集調査
- (3) 各地区からの意見書(組織検討委員会資料)

5 組織検討委員会の活動概要

(1) 組織検討委員会の構成

委員長：青山 司(道央ブロック・石狩)
委員：小笠原英緒(道南ブロック・渡島)
北山 雅章(道北ブロック・上川)
小西 政策(道東ブロック・オホーツク)
他に常任委員を加え、計10名で構成

(2) 検討課題

- ①最終報告に基づく取組について
 - ・組織の活性化と加盟校拡大
 - ・研究活動の充実と深化
 - ・財政の問題
- ②その他：今日的課題

令和元年度 研究部報告

研究部長 栗田 真

1 研究主題

「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」～児童生徒一人一人が仲間とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

2 活動の重点

第10次長期5か年研究推進計画の第1年次としての確かな実践研究を行い、地域に根ざした魅力ある教育活動を推進する。

また、第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会及び第69回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会の開催による実践記録の累積・収集を行う。

3 活動報告

(1) 共同研究体制の強化と実践研究の充実

① 企画委員会

- ・構成…研究部長、研究推進委員長、副委員長、部長
- ・開催日…5月20日、7月8日、2月12日
- ・内容…研究推進委員会の運営や全道大会の対応等について

② 研究推進委員会

- ・構成…研究部長、各地区研究推進委員
- ・開催日…5月20～21日、7月8～9日、9月18日、2月12～13日
- ・内容…研究推進委員会の役割、全道大会への協力、へき複に関する調査、情報発信等について

③ 各地区へき・複連研究活動への協力

- ・各地区研究大会等への支援

④ 未加盟校・小規模中学校への共同研究参加呼びかけ

(2) 第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会の開催

① 大会スローガン

「緑濃き空知の沃野から 次世代を担う子らに未来を切り拓く たくましい力を」

② 開催日…9月19～20日

③ 大会内容

- ・基調報告…空知へき地・複式教育連盟
- ・分散会…根室・石狩・上川地区より提言
- ・分科会…3市2町7会場

④ 協力内容

- ・分散会の企画・運営、分科会での助言

⑤ 成果と課題

- ・分散会では、提言後にグループ討議が行われた。十分な時間を確保することにより、共通の課題をもった、若手・ベテランが同じテーブルで活発な情報や意見交換を交わすことができた。
- ・分科会では、統合を抱える学校も複数あったが、7会場それぞれにこれまでの実践の成果を発表することができた。檜山プレ大会でも同様のことがいえるが、研究教科に偏りが見られるのが今後の課題となる。

(3) 第69回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会の開催

① 大会スローガン

「ふるさと檜山の未来を担う子らに 笑顔がやく豊かな心と時代を生き抜く学びを」
開催日…9月27日

② 大会内容

- ・分科会…3町3会場

③ 協力内容

- ・分科会での助言

④ 成果と課題

- ・会場校は少なかったが、ICTも活用しながら、へき複の理念でもある「地域に根ざした学校」の実践を発表することができた。

(4) 第10次長期5か年研究推進計画実践と累積

① 各地区実践事例の収集

② 全へき図書編纂委員会への実践資料提供

- ・釧路地区…弟子屈町立奥春別小学校
- ・オホーツク地区…北見市立川沿小学校

③ 地区へき・複連教育実践研究資料の蓄積と還流

(5) 研究資料の編集と発行

① 道へき・複連「研究部情報」の発行

- ・6月…長期計画の推移、研究組織
- ・2月…全道大会、プレ大会の概要報告

② 調査結果と分析

- ・全道複式校の研究分野・課題
- ・全道複式校の学級編制・形態
- ・複式学級を有する学校の指導形態

③ H Pへの掲載(北海道教育大学の協力)

- ・第10次長期5か年研究推進計画に基づく各地区実践事例

(6) 教育関係各機関・団体との連携

① 北海道教育委員会・各教育局との連携強化

② 北海道立教育研究所、各地区教育研究所、北海道教育大学との連携

③ 全国へき地教育研究連盟との連携

令和元年度 財政部報告

財政部長 田中 貴人

1 2019年度業務執行について

- (1) 会計業務については、事務局及び各部、各委員会、各地区へき・複連との連携を図り、計画に従って執行しております。
- (2) 道へき・複連会費については、当加盟会員数の減少により会費収入が減少いたしましたが、計画に従って執行することができました。
- (3) 全へき連会計につきましては、負担いただいた分を滞りなく支出することができました。今後、次年度に向けて全へき連への免除申請を行って負担金を決定いたします。また、管理職負担金につきましても、各地区のご協力により入金され、全へき連への送金を終えております。
- (4) 刊行物につきましては、今年度、北海道へき地・複式教育研究連盟結成80周年記念誌の発行に向けてつみ立たてをしております。
- (5) 全へき連発行のへき地・複式・小規模学校からの発信「豊かな学びの継承」の取組を進めることができました。各地区へき・複連においては発刊の趣旨をご理解賜り、ご協力いただいたことに感謝いたします。
- (6) 運営資金会計は、拠出金の微増となりました。納入された金額の中から規定通り全へき連へ送金いたします。各地区へき・複連のご理解とご協力で心より感謝申し上げます。

2 令和2年度の予算編成について

- (1) 予算編成における収入の見込みについては、学校の統廃合や学校規模の縮小により、今後も学校数・教職員数の減少等が予想され、昨年度以上に厳しい情勢となると思われます。予算編成の基礎資料として、2月中に各地区のへき・複連の加入校数・教員数を調査し、収支予定額を把握した上で予算を編成いたします。各地区の担当者の皆様にはお手数をかけますが、よろしくお祈いします。
- (2) 令和2年度の一般会計については、諸活動の充実に努めるとともに、削減可能な項目をより意識して予算編成を行い、令和2年度総会に提案します。
- (3) 現在執行中の旅費規定は、会員の皆様にご協力いただき圧縮していきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。
- (4) 全へき連会計及び運営資金会計は、納入される負担金等の範囲内で執行します。また、全へき新聞に代わるHPの運営費については限られた予算の中で対応していきたいと考えております。今後とも、管理職の皆様をはじめ教職員の皆様への納入拡大への働きかけや未加入校の加盟を促すようお願いいたします。
- (5) 刊行物会計については、令和2年度も、本道の実践も盛り込まれた全へき連の刊行物発行が予想されます。各地区へき・複連においては、研究図書を購入として予算付けし、購読促進の取組をぜひお願いいたします。

2019年度 一般会計執行状況 (令和2年1月20日見込み)

【収入の部】

項目	2019年度予算	決算見込	増・減(▲)
会費	3,314,436	3,208,734	74298
繰越金	696,712	696,712	0
繰入金	600,000	600,000	0
助成金	200,000	250,000	50,000
雑収入	30	17	▲13
合計	4,631,178	4,755,643	124,285

【支出の部】

項目	2019年度予算	決算見込	増・減(▲)
研究大会費	910,000	910,000	0
研究調査費	1,520,000	1,320,960	▲53,620
研成刊行費	212,000	211,664	▲336
事務局費	1,989,178	1,875,889	▲113,889
合計	4,631,178	4,318,513	▲312,665

学校数：234校 教員数：1533名

【差引残高(1/20見込)】 4,755,463円 - 4,318,513円 = 436,950円

第69回**全道へき地複式教育研究大会
檜山大会の開催について**

檜山へき地・複式研究連盟
研究部長 荒谷 幸恵

1 はじめに

昨年9月27日(金)檜山管内3会場において、第69回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会が開催されました

現在、本研究連盟加盟校は、5町8校です。檜山では、児童数減少に伴う町の適正配置計画によりここ数年で学校数は激減しました。今後も学校数の変遷においては、先行き不透明な状況が続きます。このような中、檜山へき地・複式教育研究連盟では、今回のプレ大会に向けて実行委員会を組織し、共同研究をもとに授業研究に努めてまいりました。各会場校では、6月～9月にかけて授業研究や指導案検討が精力的に行われ、檜山プレ大会に向けた授業改善はもちろん、授業力向上に繋がる貴重な取組が進められました。こうした取組を経て、開催された檜山プレ大会は、管内・管外より全会場合わせて150名ほどの教職員及び来賓・学校関係者の皆様の参加をいただきました。公開授業・研究協議では、複式授業の在り方について多くのご意見・ご助言をいただくことができました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

また、本大会の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力をいただきました北海道教育庁檜山教育局、各町教育委員会、会場校、協力校、教育関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。

2 檜山プレ大会の成果と課題

檜山プレ大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟10次長期5か年計画の初年度となります。第9次長期5か年計画最終年の期末整理期を踏まえ

ながら、第10次長期5か年計画に基づいた実践検証を進めてまいりました。各校では、自校の研究課題と研究内容との関連を明確にしながら研究推進に努め、その結果、以下のような成果と課題が明らかとなりました。

【成果】

- ・ヒントカードや既習事項を生かして解法の見通しを持つことや「ガイド学習」で学習の流れに見通しをもつことで主体的に取り組めるようになった。
- ・ICT機器を複式形態に効果的に活用することで、時間を効率的に使用し自立解決に向かう力を育む事ができた。
- ・ノートの書き方を自分の思考を整理し発表の手がかりになるものにする事で、対話的な活動につなげることができた。
- ・交流の場を意図的に設定することで、自分との考えの違いを知ったり、自分考えを深めたりすることにつながった。

【課題】

- ・「ヒントカード」などが、自力解決時の説明に生かし切れていない。
- ・話し合いや交流場面での学習リーダーの役割である、「意見をつなぎ合わせる力」「伝える力」の育成。
- ・振り返りの時間の確保
- ・一人学年の多様な考えの持たせ方。

3 檜山大会に向けて

第69回全道へき地複式教育研究大会檜山大会は、第10次長期に掲げる「学習指導の深化・充実」に関わる3つの課題を受け、研究を進めてまいりたいと考えます。

大会スローガン「ふるさと檜山の未来を担う子らに 笑顔かがやく豊かな心と 時代を生き抜く学びを」のもと、今年9月24・25日に開催いたします。全道に檜山の複式教育のよさを発信していただけるよう努めてまいりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

第70回

全道へき地複式教育研究大会 オホーツクプレ大会の開催について

オホーツクへき地・複式教育研究連盟
研究部長 橋本 大

1 はじめに

オホーツクへき地・複式教育研究連盟加盟校は、令和元年度現在、2市6町22校が在籍し、活動を続けています。全国的な児童数の減少のため、当管内でも数年おきに閉校する学校があり、学校数は減り続けています。今後もこの傾向が続くと思われまます。このような中、各校の教職員は、学校の存廃に迷うことなく、教育に情熱をかけています。学校で目を輝かせて学ぶ子どもに、未来で活躍するための「生きる力」を身につけさせるため、日々研鑽を続けています。

オホーツクのへき地教育は、へき地複式教育こそ教育の原点である、との考えのもと、「主体的・創造的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」を研究主題に教育実践が積み重ねられ、引き継がれてきました。

へき地複式学校ならではの特徴を最大限に生かし、管内全体での共同研究を通して、児童生徒一人一人が仲間とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして、取組を進めています。

2 管内研究推進の方針

オホーツクへき地・複式教育連盟は、今年度から、道へき複連の第10次5カ年計画に基づき、初年度の実践研究を推進してきました。次年度の全道プレ大会が開催に向け、オホーツク大会実行委員会を組織し、プレ大会・本大会の成功を期して、研究と準備を進めています。

3 オホーツクプレ大会の概要

- (1) 大会期日：令和2年9月18日(金)
- (2) 会場：オホーツク管内6会場
- (3) 各分科会：＜本年の研究教科・年次＞
(本年4月現在の学校規模)

- ①北見市立上仁頃小学校＜外国語・1/3＞
(普通3：19名)
- ②北見市立豊地小学校＜算数・1/3＞
(普通3：23名)
- ③湧別町立開盛小学校＜外国語・2/4＞
(普通3：8名)
- ④佐呂間町立若佐小学校＜算数・1/3＞
(普通4、特支1：42名)
- ⑤滝上町立濁川小学校＜算数3/3＞
(普通4：14名)
- ⑥雄武町立沢木小学校＜算数1/3＞
(普通3、特支2：17名)

4 おわりに

オホーツクへき地・複式教育連盟は、北海道へき地・複式教育研究連盟の長期研究推進計画を受け、研究を推進してきました。この研究の成果は研究集録としてまとめられ、教育財産として継承してきました。

管内には、まだ未加盟であったり、複式学級の設置が予測される学校があります。今後も、継続的に組織の拡大を図ると共に、これまで先人が積み重ねてきた教育財産を活用して、さらなる教育実践の発展を目指します。

また、当管内は海に沿って南北に広く、都市部に比べ公共交通機関の不便な地もあります。会場校6校は、お互いに離れてはおりますが、教育課題を解明・解決し、日々実践を続けています。どうぞ、第70回全道へき地複式教育研究大会オホーツクプレ大会にご参加いただき、各学校の研究の成果をご覧くださいませよう、心よりご案内申し上げます。